

# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

|         |                |
|---------|----------------|
| 誌 名     | やぶなべ会報         |
| 号/発行年/頁 | 30 / 2011 / 24 |
| タイトル    | 青森市油川でもクロアゲハ   |
| 著 者 名   | 五十嵐豊           |

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 青森市油川でもクロアゲハ

第6代 五十嵐 豊

本誌前号(No.29、2011)で、山道忠郎さんの青森市新城でクロアゲハを得たという報告があったが、そこから北の青森湾寄りに位置する油川でも同種 2 例を確認したので報告する。暖地性のこのチョウの北への分布拡大について、ひとつの参考資料となれば幸いである。

## データ

- 1) 成虫 1♀(夏型): 青森市大字油川字中道・小笠原ミツエ氏宅玄関風除室内(東向き、写真1)で2011年11月23日に死骸として発見。
- 2) 幼虫から蛹 1 個体: 同所玄関前のミカン類の鉢植え(写真1)に付着。幼虫の大きさ・色彩・斑紋の特徴からアゲハチョウとは異なる種と判断し、10月14日に筆者が譲り受け、同月23日頃に蛹化。蛹は寒冷地での越冬障害の有無を確かめるため屋外で保管中。

## 経緯

クロアゲハが産卵した鉢植えの所有者・小笠原ミツエさんと筆者宅は筋向かい。上記2)の産卵されたのは9月で複数卵。成長につれ変わった幼虫だと譲り受けたときは終齢時で1個体だけだった。刺激を与えると一対の臭角を出す、色が他のアゲハチョウ類が黄色からオレンジ色なのに対し、この幼虫は赤色を呈し(写真2)、クロアゲハの可能性が大と判断。間もなく蛹化したが形態(写真3)が、背面から見た腹部の幅が広いこと、側面から見て胸・腹部にかけての反り返りが強いことなどから、最終的にクロアゲハと同定した。

1)の成虫1♀は後になって見つかったもので、2)の卵を産んでから風除室に迷い込んだ可能性がある。

貴重な材料を提供された小笠原ミツエさんに、心から感謝する。



[写真1] クロアゲハ幼虫が付着していたミカン類の鉢植え。右奥が風除室で成虫の死骸を発見



[写真2] 終齢幼虫と長く伸ばした一対の赤色の臭角(2011年10月15日)



[写真3] クロアゲハ蛹。左から側面、背面、腹面を示す(同年11月17日)